

# 日本昆虫学会第74回大会講演要旨

2014.9.14 - 16

広島大学: 東広島市



	A会場 (L104)	B会場 (L107)	C会場 (L204)	D会場 (L206)
14日 (日) 9:30-12:30	学会賞受賞講演・総会 総会会場 (L205)			
13:30-16:00	公開シンポジウム 「これからの科学者を育てるために」 サタケメモリアルホール			
17:00-19:00	懇親会 西第2福利会館カフェテリア			
15日 (祝) 9:00-12:00	一般講演			
	分類	系統・生物地理	生態・行動	生活史 進化・遺伝・種分化
12:00-13:00	小中高校生ポスター コアタイム (L102)			
14:00-17:00	シンポジウム			
	「危機にさらされる海岸性昆虫とその保全」 主催：自然保護委員会 総会会場 (L205)		「昆虫学会秋の学校」 主催：大会事務局 シンポジウム会場 (K201)	
17:30-19:30 小集会	第23回昆虫担当学芸員協議会総会 (A会場) 昆虫の季節適応談話会 (B会場) 昆虫分類学若手懇談会シンポジウム (C会場)		日本半翅類学会小集会 (D会場) ハナバチ談話会 (E会場) 昆虫の家族をめぐる進化生態学 (F会場)	
16日 (火) 9:00-12:00	一般講演			
	分類	系統・生物地理 その他	生態・行動	進化・遺伝・種分化
13:00-17:00	一般講演			
	分類 害虫管理・生物的防除	多様性・保全・環境	生態・行動 生理・生化学	進化・遺伝・種分化 形態・組織・発生 有用昆虫・昆虫機能
17:30-19:30 小集会	みんなの海外昆虫学研鑽記 (A会場) 第18回地表性甲虫談話会 (B会場) 寄生性ハチ類の集い (C会場)		穿孔性昆虫を語る会 (D会場) 好蟻性昆虫小集会 (E会場)	

	A会場	B会場	C会場	D会場
9:00	A201 数々の未知種を発見したカンボジアにおける好白蟻性昆虫の調査 ○金尾太輔1・丸山宗利2 (九大院・生資環・昆虫1・九州大・博2)	B201 クマゼミとミンミンゼミの地理的分布形成過程について 横地亮祐1・○三浦一芸1, 2 (広島大学生物圏科学科1・近中四農研2)	C201 アルマンカタコハナバチの高地と低地における営巣生態の比較 ○森本健太郎1・宮永龍一1 (島根大学・生物資源)	D201 幼虫—蛹寄生および卵—蛹寄生をおこなうコガタハモグリヤドリタマバチ(膜翅目:ヤドリタマバチ科)の寄生様式の比較 ○田口大輔1・阿部芳久1 (九大院・比文1)
9:15	A202 わが国におけるシロジュウジホシカメムシ <i>Dysdercus decussatus</i> 種群(カメムシ目:ホシカメムシ科)の学名と和名の混乱の経緯 ○河野勝行1 (農研機構野菜茶業研究所1)	B202 金沢市に定着したスジアカクマゼミの地理的起源に関する分子系統学的解析 ○嶋田敬介1・富沢章2・前川清人3 (石川県立自然史資料館1・小松市2・富山大院・理3)	C202 フタモンカタコハナバチにおける巣外活動の抑制 ○浦岡優1・宮永龍一1 (島根大院・生物資源1)	D202 多化性寄生蜂の羽化パターン多型:蛹期間は異なるか? ○板谷弘樹1・上野高敏2 (九州大・生資環1・九州大・農2)
9:30	A203 日本産クロマダラナガカメムシ科の分類学的研究 ○伴光哲1 (有)a環境研究所1)	B203 飛騨山脈でのタカネヒカゲとミヤマモンキチョウの分布様式の要因 ○伊藤隆夫1 (広島大院1)	C203 セグロアシナガバチにおける腹部黄紋の変異の特徴 ○吉村英翔1・山田佳廣1 (三重大院・生物資源1)	D203 ついに発見!キララシジミ亜科の幼生期:その形態および生態 ○矢後勝也1・工藤誠也2・青木由親3・工藤忠4・高山浩司1・池田博1 (東京大・総研博1・岩手連大2・下諏訪町3・弘前市4)
9:45	A204 きわめて類似したヒメナガカメムシ属2種について(半翅目:マダラナガカメムシ科) ○中谷至伸1 (農環研1)	B204 石川県産シルビアシジミの遺伝的変異 ○平井規央1・坂本佳子1・矢後勝也2・石井実1 (大阪府大院・生命1・東大・総研博2)	C204 新熱帯に生息するベルシカラーアシナガバチにおけるコロニー内の血縁構造 ○高橋裕美1, 2・山田彩乃2・工藤起来2 (新潟大学院・教育1・新潟大・教育2)	D204 ドイツ産モンシロチョウの蛹休眠を誘起する光周反応 ○橋本健一1・加藤義臣2・飯島和子3 (千葉県立保健医療大1・国際基督教大2・秀明大3)
10:00	A205 東南アジア産 <i>Sipylus dilatatus</i> 種群(カメムシ目:ツノゼミ科)の分類 ○知久寿明1・丸山宗利2 (東京都杉並区1・九州大・博2)	B205 房総半島に孤立分布するオサムシ類2種の形態的・遺伝的特性 ○粟野雄大1・春日速水1・久保田耕平1 (東大院・農1)	C205 フタイロマガリアリにおけるコロニー構成の地理変異 ○伊藤文紀1・江口克之2・WeeyawatJaitrong 3・RosliHashim4 (香川大・農1・首都大・理工2・タイ自然史博3・マラヤ大・理4)	D205 コノハムシの飼育と繁殖から見た生活史 ○野本康太1 (伊丹市昆虫館1)
10:15	A206 日本から新種記載された侵入害虫ビワキジラミ(カメムシ目:キジラミ科) ○井上広光1 (果樹研究所1)	B206 津市海岸のミカワオサムシ個体群の形態解析, 遺伝子解析にもとづく由来の推定 ○佐藤優1・秋田勝己2・乙部宏2・久保田耕平1 (東大・院農1・三重県津市2)	C206 クロコウスバカゲロウ幼虫に捕獲されやすいアリ ○大部泰嗣1・永久愛子1・伊藤文紀1 (香川大・農1)	D206 クマゼミの羽化日、初鳴日、最早朝鳴日 考察 ○平川紀夫1 (一般社団法人日本気象予報士会1)
10:30	A207 九州北西部のクワキヨコバイ属の多様性 ○紙谷聡志1 (九州大学・農・昆虫1)	B207 ベトナムのミナミカワトンボ科:その分類, 系統, 分布 ○PhanQuoc Toan1・苅部治紀2・林文男1 (首都大・生命1・神奈川県立博物館2)	C207 好蟻性昆虫の研究から迫る侵略的外来種アリの起源 ○小松貴1・丸山宗利2・Rosli Hashim3・Watana Sakchoowong4・Wara Asfiya5・Henny Herwina6・緒方一夫1 (九州大・熱農研1・九州大・博2・マラヤ大・理3・カセサート大・国立公園局4・ポゴール動物博5・アンダラス大・理6)	D207 標高の異なる地点におけるセイタカアワダチソウヒゲナガアブラムシの発生消長 ○安達修平1・白濱祥平1・徳田誠1 (佐賀大・農1)

10:45	A208 インドネシア・スラウェシ産 <i>Scaphidium</i> デオキノコムシ属(コウチュウ目, ハネカクシ科, デオキノコムシ亜科)の分類学的研究 ○小川遼1, 3・LöblIvan2・前藤薫1・SjamSylvia3 (神戸大院・農・昆虫1・ジュネーブ博2・ハサヌディン大3)	B208 キリギリス種群の分子系統解析及びニシキリギリスの配偶行動解析 ○窪田蒼起1・廣田竜也2・田中良佑2・望月淳3・和田一郎4・小川次郎5・中秀司2 (鳥取大・院農1・鳥取大・農2・(独)農環研3・飯能市4・愛媛大・連農5)	C208 アリヤドリバチに対するトビイロケアリの幼虫運搬スケジュール管理 ○高須賀圭三1・東川航2・小松貴3・小西和彦4・Mark R.Shaw5・前藤薫2 (神戸大・昆虫多様性・学振PD1・神戸大・農・昆虫多様性2・九大・熱研・学振PD3・愛媛大ミュージアム4・エディンバラ5)	D208 外来昆虫ブタクサハムシにおける光周性の地理的変異: 緯度、標高、寄主植物の影響 ○田中幸一1・村田浩平2・松浦朝奈2 (農環研1・東海大2)
11:00	A209 日本産ヒラタケシキスイ亜属(コウチュウ目, ケシキスイ科)の分類学的再検討と生態的知見, 分布様式についての考察 ○久松定智1 (愛媛大・農・農生態1)	B209 バングラデシュのツムギアリ個体群についての系統生物地理的仮説とその検証 ○緒方一夫1・マムヌールラマン1・細石真吾1 (九大・熱研センター1)	C209 アリの採餌行動における光の影響 ○藤井秀行1 (広大院理1)	D209 沖縄県および本州の年多化性の可能性があるカミキリムシの生活史 ○森田涼平1 (日大・生物資源1)
11:15	A210 日本産ツヤヒラタガムシ属の再検討(鞘翅目・ガムシ科) ○袁島悠介1 (北九州市自歴博1)	B210 シリホソハネカクシ族(甲虫目: ハネカクシ科: シリホソハネカクシ亜科)の形態系統解析 ○山本周平1・丸山宗利2 (九州大・生資環・学振DC1・九州大・博2)	C210 冬に見られるクロキの奇形花はヒゲトガリキジラミの吸汁により咲く虫えいである ○徳田誠1・甲斐進也1・神代瞬1・塩見寛久1・松永紀代子2・行徳直久3 (佐賀大・農1・筑紫野市2・久留米市3)	D210 フタイロカミキリモドキにおける形態変異と緯度との関係 ○里見太輔1・小笠航2・立田晴記2・小汐千春1・工藤慎一1 (鳴門教育大院・学校教育1・琉球大・農2)
11:30	A211 樹液に集まるヒメトゲムシ分類学的再検討と食性 ○吉富博之1 (愛媛大学ミュージアム1)	B211 全北区のシブキバエ亜科の分布と分類, 特に日本産属について(双翅目, オドリバエ科) ○三枝豊平1 (福岡市1)	C211 オオイヌタデのトリコームのハムシ類に対する防御効果 ○白濱祥平1・山尾僚2・徳田誠3 (佐賀大・農1・九大・理2・佐賀大・農3)	D211 トコジラミにおけるメス交尾器の重複現象: 奇形か? 適応的変異か? ○上村佳孝1・三本博之2・李昭揚3 (慶應大・生物1・慶應大・自然科学研究教育セ2・マレーシア科学大・生物3)
11:45	A212 日本産Brontini族(甲虫目: ホソヒラタムシ科)の分類学的再検討と幼虫形態 ○吉田貴大1・広渡俊哉2 (九大院・生資環・昆虫1・九大院・農・昆虫2)	B212 <i>Scaptomyza</i> 属ショウジョウバエの系統進化 ○加藤徹1・山下伸志1・福田洋之1・DickMatthew1・和多田正義2 (北大・院理1・愛媛大・院理工2)	C212 労働寄生性ゴールアブラムシが受ける選択圧の地理的変異 ○村松康一1・秋元信一2 (北大・農・昆虫体系1・北大・農・昆虫体系2)	D212 チャノハマキソガ <i>Caloptilia theivora</i> の産卵選好性と集団構造 ○大島一正1・森口幹太1・徳丸晋2 (京都府大・生命環境1・京都府農林水産技術センター2)

	A会場	B会場	C会場	D会場
9:00	A301 長野県、福島県、山形県の山岳域から発見されたアザミウマ亜科の未記載種の所属(アザミウマ目:アザミウマ科) ○志賀澄歌1・塘忠顕2 (福島大・院・共生システム理工1・福島大・共生システム理工2)	B301 世界広域に分布する一斉羽化昆虫シロイロカゲロウ種群の分子系統解析 ○関根一希1・東城幸治2・Lee Jong Eun3・BaeYeon Jae4 (高麗大学・BK211・信州大学・理学・生物科2・安東大学・生物学3・高麗大学4)	C301 オカモトフタテンヒメヨコバイ(カメムシ目:ヨコバイ科)の産雌性単為生殖と生殖操作細菌 <i>Wolbachia</i> の関係 ○倉橋拓也1・神代瞬2・キムワンギウ1・大原直通1・紙谷聡志1 (九大・農・昆虫1・鹿大院・連合農学2)	D301 東南アジアで進行中のニジュウヤホシテントウの寄主範囲拡大:ボルネオ島での状況 ○藤山直之1・加藤徹2・小路晋作3・菊田尚吾2・村田拓也2・SihKahono4・片倉晴雄2 (山形大・理1・北大・院理2・金沢大・地域連携セ3・インドネシア科学院4)
9:15	A302 福島県と宮城県の河川に生息するヒメシロカゲロウ属の形態的特徴(カゲロウ目:ヒメシロカゲロウ科) ○増淵翔太1・大平創1・塘忠顕2 (福島大・院・共生システム理工1・福島大・共生システム理工2)	B302 広域分布種・チラカゲロウにおける系統地理・系統進化、そして流程分布するクレードの検出について ○斎藤 梨絵1・東城幸治2 (信州大・総合工1・信州大・理・山岳科学総合研2)	C302 共生細菌 <i>Wolbachia</i> は寄生蜂の若い時期の寄生行動を促進する ○降幡駿介1・平田真紀子1・早川洋一1 (佐賀大・院農1)	D302 ハシリハリアリ属(ハチ目:アリ科)における軍隊アリ化現象の進化 ○有本晃一1・丸山宗利2・伊藤文紀3・山根正気4 (九州大院・生資環・昆虫1・九州大・博2・香川大・農3・鹿児島市4)
9:30	A303 シダ類の孢子食の日本産ニセマイコガ類に関する分類学的再検討(鱗翅目, ニセマイコガ科) ○寺田剛1 (鹿大院・連農1)	B303 日本列島にのみ特殊分布するガガンボカゲロウ類の系統地理学的な分布域解釈~奄美群島を中心に~ ○竹中將起1・東城幸治2 (信州大学理工学系研究科1・信州大学理学部生物科学学科2)	C303 <i>Asobara</i> 属2種の寄生蜂における産卵時の宿主選択と寄生成功率 ○粕谷菜月1 (首都大院・理工1)	D303 ヒメサスライアリ属(ハチ目:アリ科)の分子系統と進化 ○丸山宗利1・DanielKronauer2・小松貴3・板谷弘樹4・江口克之5・伊藤文紀6・橋本佳明7・山根正気8 (九州大・博1・ロックフェラー大2・九州大・熱研3・九州大院・農4・首都大・教養5・香川大・農6・兵庫県博7・鹿児島市8)
9:45	A304 ベトナム産キョトウ(チョウ目ヤガ科)の分類学的再検討 ○吉松慎一1 (農環研1)	B304 標高傾度に沿って種群分布するモンカゲロウ類を対象とした分子系統地理学的研究 ○小河原 寛明1・関根一希2・東城幸治1 (信州大・理1・Korea Univ.2)	C304 Strategy for Compensating Imperfect Host Discrimination in an Infanticidal Parasitoid, <i>Haplogonatopus</i> ○GuloChristine1・藪内美奈実2・山田佳廣1 (三重大院・生物資源1・三重大・生物資源2)	D304 <i>Dracula ants</i> の下克上:ヘラアゴハリアリ属 <i>Myrmium</i> にみられる繁殖様式の多様性(Hymenoptera: Formicidae) ○吉村正志1 (OIST・生物多様性1)
10:00	A305 南インド産のシンジュキノカワガについて ○上田恭一郎1 (北九州自然史・歴史博1)	B305 東アジア産タイコウ子科昆虫における系統地理学的研究 谷野宏樹1・三原龍太郎1・鈴木智也2・東城幸治1 (信州大・理・生物1・信州大・山岳研2)	C305 シキミタマバエ(ハエ目:タマバエ科)の年1化型と2年1化型個体の出現比率の年次変動と地理的変異 ○湯川淳一1・中川耕人2・河野明広3・徳田誠4・松尾和典5・藤井智久6 (九大1・鹿児島・農政部2・鹿児島農開総セ3・佐賀大・農4・徳島農総技セ5・九大院・比文6)	D305 コケ植物食のシギアブにおける植食性の起源と多様化 ○今田弓女1, 2・加藤真1 (京大院 人・環1・学振特別研究員(DC1)2)
10:15	A306 日本産オオヒロズコガ亜科およびコクガ亜科(チョウ目ヒロズコガ科)の分類と分子系統(予報) ○長田庸平1・黄国華2・坂井誠3・吉松慎一4・宮本泰行5・広渡俊哉6 (九大院・生資・昆虫1・湖南農業大学2・共生科学3・農環研4・亀岡食品販売5・九大院・農・昆虫6)	B306 コバントビケラ類(アシエダトビケラ科)の分子系統地理学的研究 柴田幸紀1・伊藤富子4・竹中將起2・鈴木智也3・東城幸治1, 2, 3 (信州大学理学部生物科学科1・信州大学大学院理工学研究科2・信州大学山岳科学研究所3・北海道淡水生物研究所4)	C306 日本と韓国におけるセリミタマバエ <i>Kiefferia pericarpicola</i> (ハエ目:タマバエ科)の発見と寄主範囲および生活史 ○キムワンギウ1・南常雄2・徳田誠3・松尾和典4・湯川淳一5 (九大院・生資環・昆虫1・旭川市2・佐賀大・農3・徳島農総技セ4・九大5)	D306 オオバギ属を食樹とするムラサキシジミ類における好蟻性形質の進化 ○上田昇平1・清水加耶2・大久保忠浩2・市岡孝朗2・乾陽子3・矢後勝也4・小松貴5・市野隆雄1, 6 (信州大・理1・京都大院・人環2・大教大・教育3・東京大・総研博4・九州大・熱農研5・信州大・山岳研6)

10:30	A307 大阪府内のさまざまな緑地における腐植食性ガ類の種多様性 中塚久美子2・○広渡俊哉1・池内健3・長田庸平4・金沢至5 (九大院・農・昆虫1・大阪府大院・生環・昆虫2・大阪府大・生環・昆虫3・九大院・生資環・昆虫4・大阪市自然博5)	B307 山岳源流棲昆虫・オンダケトビケラ類の系統進化・系統地理学的研究 ○三上賢司1・野崎隆夫2・東城幸治3 (信州大院・理工1・神奈川県二宮町2・信州大学・理3)	C307 環境要因および虫えいの形質がイヌツゲタマバエ(ハエ目:タマバエ科)の寄生蜂群集に及ぼす影響 ○藤井智久1・松尾和典2・湯川淳一3・桐谷圭治4・阿部芳久1・徳田誠5 (九大院・比文1・徳島農総技セ2・九大3・伊東市4・佐大・農5)	D307 ハナバチネジレバネの宿主特異性と雌頭部形態 ○中瀬悠太1 (科博1)
10:45	A308 日本産Styrimomyia属(双翅目, ヒメガガンボ科)の分類学的研究 ○加藤大智1・中村剛之1 (弘前大・白神研1)	B308 Thrips genus-group(アザミウマ目:アザミウマ科)に属するアザミウマ類の分子系統解析 ○木目澤友梨恵1 (福島大・院・共生システム理工1)	C308 鱗翅目幼虫における系登り行動の普遍性と多様性 ○杉浦真治1・花谷郁美1・山崎一夫2 (神戸大・農学1・大阪市立環境科学研究所2)	D308 ナシゲンバイの系統的位位置とツツジゲンバイ属の生態形質の進化過程 ○室紀行1・久保田耕平1 (東大・院農1)
11:00	A309 Polypedilum属 Uresipedilum亜属(双翅目:ユスリカ科:ハモンユスリカ属)の分類学的再検討 ○山本直1・山本優2・広渡俊哉3 (大阪府大院・昆虫1・下関市2・九州大学院・昆虫3)	B309 滋賀県犬上郡多賀町の古琵琶湖層群から産出した昆虫化石 ○八尋克郎1・林成多2 (琵琶湖博物館1・ホシザキグリーン財団2)	C309 モンシロチョウの訪花行動における色と匂いの2モード学習 ○香取郁夫1・安藤圭介1・西村崇1 (近畿大・農1)	D309 セスジアメンボの翅型決定に関わるゲノム領域の推定に向けた試み ○広岡佑太1・大島一正1 (京都府大院・生命環境1)
11:15	A310 日本産armyworm(クロバネキノコバエ科)の飼育による種同定 ○須島充昭1 (東大・総合文化1)	B310 便乗寄生者ツチハンミョウ類の分子系統地理学的研究 ○大西央士郎2・東城幸治1, 2, 3 (信州大学理学部生物科学科1・信州大学大学院理工学研究科2・信州大学山岳科学研究所3)	C310 山梨県での外来種アカボシゴマダラの分布と定着の可能性 ○松本祐樹1・森貴久1 (帝京科学大学1)	D310 カイコ成虫短命系統の次世代DNAシーケンサを用いた全ゲノム解析 ○村上聡1, 2 (ライフテクノロジーズジャパン1・農工大院農2)
11:30	A311 西表島におけるツマキツツアナバチの追加記録と生態の解明 ○伊藤誠人1・大塩拓美2・半田宏伸3・渡辺恭平4 (神戸大院・農・昆虫多様性1・神戸大・農・昆虫多様性2・東農大院・農・昆虫3・神奈川県立生命の星・地球博物館4)	B311 東南アジアにおけるニジュウヤホシテントウ集団の遺伝的構造 ○村田拓也1・加藤徹1・藤山直之2・小路晋作3・菊田尚吾1・SihKahono4・片倉晴雄1 (北大・院理1・山形大・理2・金沢大・地域連携3・LIPI4)	C311 繭期の捕食圧からヒロヘリアオイラガ衰退のなぞを探る ○古川真莉子1・高倉耕一1・本間淳1・中西康介2・松山和世1・日高直哉1・沢田裕一1・西田隆義1 (滋賀県大・環境科学1・名大・院・環境2)	D311 タマバチ科におけるゴール形成能力の喪失と再獲得—分子系統学的アプローチ ○井手竜也1・楠見淳子1・三浦一芸2・阿部芳久1 (九州大院・比文1・近中四農研セ、広島大院2)
11:45	A312 日本及びベトナム未記録属Formosiepyris(ハチ目:アリガタバチ科)について ○辻井健太郎1・三田敏治2 (東京農大・院・農1・九沖農研セ2)	B312 長崎県金比羅山における蚊の生物多様性調査:Open Data Kitを用いた効率的なデータ収集および管理の事例 ○星友矩1, 3・今西望1, 3・岩下華子2・TrangHuyhnh T.T.1, 3・LuisChaves3 (長崎大学医歯薬学総合研究科1・長崎大学国際連携研究戦略本部2・長崎大学熱帯医学研究所3)	C312 人工飼育でわかったアイノキクイムシの繁殖生態 ○藤戸茜1・水野孝彦1・梶村恒1 (名古屋大学院・生命農学研究科1)	D312 ギンケハラボソコマユバチの無性および有性系統の複雑な遺伝的構造 ○前藤薫1・藤江隼平1・梅基弘宣1 (神戸大・院・農学1)

	A会場	B会場	C会場	D会場
13:00	A313 クロヒメバチ <i>Amblyjoppa cognatoria</i> (Smith, 1874)および近縁種のDNA/バーコーディングを用いた分類学的検討 ○菊地波輝1 (北大・農・昆虫体系1)	B313 ミャンマーの山地溪流性水生昆虫と河川環境 ○倉西良一・Hnin Wityi2・藤野毅2 (千葉県立中央博物館1・埼玉大学工学部2)	C313 日本における養菌窃盗性キクイムシの発見 ○西村朋也1・梶村恒1・HulcrJiri2 (名大院・生命農1・Univ. of Florida2)	D313 クモヒメバチ属群の系統と分類～クモ利用の進化 ( <i>Polysphincta</i> group, Pimplinae; Ichneumonidae) ○松本吏樹郎1 (大阪自然史博1)
13:15	A314 日本から新たに発見されたオナガアメバチモドキ属 <i>Weisia</i> 亜属の分類学的研究 (ハチ目:ヒメバチ科:ハバチヤドリヒメバチ亜科) ○清水壮1・渡辺恭平2 (筑波大・生命環境1・神奈川県立生命の星・地球博物館2)	B314 ペット昆虫における国内外来種の見えない脅威の可視化とリスク管理の試み ○荒谷邦雄1・細谷忠嗣1・小田切顕一1・楠見淳子1 (九大・院・比文1)	C314 寄主の違いがルイスホソカタムシの発生消長および体サイズに及ぼす影響について ○大橋章博1 (岐阜県森林研1)	D314 種子島のキタキチョウにおけるメスに偏った性比異常:ボルバキアは宿主を絶滅させるか? ○陰山大輔1・成田聡子2 (生物研・昆虫微生物1・基盤研・霊長類2)
13:30	A315 日本産ハマキヤドリヒメバチ族 Glyptini の分類学的研究 (その4)まとめ (ハチ目:ヒメバチ科:ウスマルヒメバチ亜科) ○渡辺恭平1 (神奈川県博1)	B315 小笠原諸島の双翅目相 ○末吉昌宏1 (森林総合研究所九州支所1)	C315 ゴホンダイコクコガネの造巣行動における微生物利用の可能性 ○赤嶺真由美1・棚橋薫彦2・岩田隆太郎1・深津武馬2 (日大・生物資源1・産総研2)	D315 形態解析と遺伝子解析にもとづくトウカイコルリクワガタとユキグニコルリクワガタの種間関係 ○久保田耕平1・渡邊花奈1・久保田典子2・下山良平3 (東大・院農1・横浜市2・茅野市3)
13:45	A316 日本産アシナガバチヤドリヒメバチ属 (ヒメバチ科, トガリヒメバチ亜科) ○小西和彦1・芳田琢磨2 (愛媛大・ミュージアム1・北海道大2)	B316 植生帯に生息するアメンボ類の産卵基質選好性の解明 ○大串俊太郎1・大場和彦1・繁宮悠介1 (長総大・院・工学1)	C316 シロスジカミキリ新成虫の脱出時における行動とそれに関する形態-前脚脛節について- ○日下部良康1・桐山哲1 (日大・生物資源・森林動物1)	D316 日本産ルリクワガタ属と共生酵母の共種分化過程 ○渡邊花奈1・棚橋薫彦2・深津武馬2・久保田耕平1 (東大・院農1・産総研2)
14:00	A317 ボロボロノキメフクレフシから得られた <i>Ceratoneura</i> 属 (ハチ目:ヒメコバチ科) の分類学的地位と生活史に関する考察 ○松尾和典1・行徳直久2・上地奈美3・湯川淳一4 (徳島農総技セ1・久留米市2・果樹研3・九大4)	B317 メコン川氾濫原の天水田と灌漑水田における水生昆虫相の比較 ○中西康介1・夏原由博1・KeophilaSisavath2・SouthavongSisomphone2・Duangvongsalnpaeng2 (名古屋大・院・環境1・チャンパサック大2)	C317 ボウフラに対するハイロゲンゴロウの捕食頻度と水深の関係 ○大庭伸也1, 2・潮雅之1 (京大生態研1・長崎大・教育・生物2)	D317 一風変わったクワガタムシと共生する新規の酵母類 ○棚橋薫彦1・渡邊花奈2・久保田耕平2・細谷忠嗣3・荒谷邦雄3・深津武馬1 (産総研1・東京大2・九州大3)
14:15	A318 日本産ゴミムシタマゴクロバチ属 <i>Trimorus</i> (膜翅目:タマゴクロバチ科) の分類学的研究(予報) ○米田洋斗1・山岸健三2・広渡俊哉3 (九大院・生資環・昆虫1・名城大・農・昆虫2・九大院・農・昆虫3)	B318 水生昆虫群集の遷移パターンとそれに及ぼす周辺環境の影響 ○鈴木真裕1・平井規央1・石井実1 (大阪府大院・生命・昆虫1)	C318 ドロノキハムシの孵化幼虫に見られる食卵の意義 ○五味正志1・夏山雅史1・佐々木紀人1 (県立広島大学生命環境学部1)	D318 ヤミサラグモ属 (クモ目:サラグモ科) にみられる交尾器サイズの分化による種分化の可能性 ○井原庸1・馬場友希2 (広島県環境保健協会1・農業環境技術研究所2)
14:30	A319 ゴール形成性タマバエ類 (ハエ目:タマバエ科) に寄生する <i>Neanastatus</i> sp. (ハチ目:ナガコバチ科) の分類学的検討 ○河野太祐1・松尾和典2・東浦祥光3・丸山宗利4 (九州大院・生資環・昆虫1・徳島農林総技セ2・山口柑振セ3・九州大・総合研究博4)	B319 阿蘇地域における食糞性コガネムシ相と食糞性コガネムシによる牛糞処理の可能性について ○工藤寛生1・村田浩平2・玉川佳樹1 (東海大学大学院1・東海大学農学部2)	C319 ヨソボシモンシテムシの幼虫の餌請いと飢えの関係 ○鈴木誠治1 (北大院・農1)	D319 若狭湾周辺におけるアカサビザトウムシの染色体数の地異的分化と丹後山地における染色体数の求心の増加 ○鶴崎展巨1・横山瑞歩2 (鳥取大・地域・生物1・鳥取大・地域・生物2)

14:45	A320 中国大陸におけるアカガシ亜属を寄主とするタマバチ科(膜翅目)の発見 ○阿部芳久1・井手竜也1・小田切顕一1 (九州大学院・比文・生物多様性1)	B320 森林の伐採と作業道の開設が腐肉食性シデムシ・コガネムシ群集に与える影響 ○上田明良1・後藤秀章1・金谷整一1 (森林総研九州1)	C320 カンタリジンに誘引される特異な節足動物群集の島嶼間変異 ○橋本晃生1・林文男1 (首都大・生命1)	D320 トンボ目の卵巣小管数はなぜ多く、変異に富むのか? ○小林純子1 (東京農大院 農1)
15:00	A321 ナミヒメクモバチ複合種群(クモバチ科)における隠蔽種の探索 ○久留島宏明1・清水晃1・西本裕2・佐山勝彦3・松本和馬4・加藤学5・渡邊謙太6・KimJeong-Kyu7 (首都大院・理工1・神戸女学院大・人間科学2・森林総研・北海道3・森林総研・東北4・山田養蜂5・沖縄高専6・韓瑞大・理7)	B321 福島県裏磐梯地域におけるオサムシ相 ○緒勝祐太郎1・塘忠顕2 (福島大・院・共生システム理工1・福島大・共生システム理工2)	C321 鹿児島に飛来したギンヤンマ大群と台風の関係 ○金井賢一1・福田晴夫2 (鹿児島県立博物館1・鹿児島市2)	D321 雌にectospermalegeを欠くハナカメムシ類の外傷性受精 ○山田量崇1 (徳島県博1)
15:15	A322 日本列島に広域に分布するアメシロアリ(アリ科:ヤマアリ亜科:アメシロアリ属)に含まれる複数の隠蔽種 ○江口克之1・小栗恵美子2・久留島宏明1・伊藤文紀3・山根正気4・寺山守5 (首都大学東京理工学研究科1・広島大学理学研究科2・香川大学農学部3・鹿児島市4・東京大学農学生命科学研究科5)	B322 ゴイシツバメシジミの衰亡の現状と保全 ○杉本美華1・三枝豊平2 (九大・博1・福岡市2)	C322 クモガタガガンボは厚く積もった雪の下でくらしている(双翅目, ヒメガガンボ科) ○中村剛之1・加藤大智1 (弘前大・白神研1)	D322 半翅目セミ型下目における後胸跳躍筋の進化系列 ○小川直記1・吉澤和徳1 (北大・農・昆虫体系1)
15:30	A323 アカネ科アリ植物 <i>Neonauclea celebica</i> と共生関係にあるシリアゲアリ類の分類・系統的位相について ○細石真吾1・緒方一夫1 (九大熱研センター1)	B323 くじゅう・阿蘇地域におけるオオルリシジミの生息状況と保護活動 ○玉川佳樹1・村田浩平2・碓元貴也1・岡田工3 (東海大学・大学院1・東海大学・農学部2・東海大学・チャレンジセンター3)	C323 地上で蛹化するキイロシヨウジョウバエも温度較差をもちいて羽化時刻を補正するか? ○田中一裕1・渡康彦2 (宮城学院女子大・一般教育1・芦屋大・生命工学2)	D323 アリの顔学-大アゴ筋肉と脳視葉系に見るアリ類の機能形態的コンフリクト ○橋本佳明1 (兵庫県立大1)
15:45	A324 埼玉県草加市のソメイヨシノにおける外来種クビアカツヤカミキリの被害状況と今後の課題 ○桐山哲1・青山真大1・小林諒介1・加納正行2・足立一夫3・野中俊文4・山中康如1・日下部康良1・岩田隆太郎1 (日大・生物資源1・埼玉県生態系保護協会2・(有)足立生物研究所3・(株)建設技術研究所4)	B324 森林総合研究所関西支所のチョウ類相 ○井上大成1・濱口京子2・佐藤隆士3・浦野忠久4 (森林総研多摩1・森林総研関西2・兵庫県加西市3・森林総研森林昆虫4)	C324 オンブバッタの体温の雌雄間の違い ○井出純哉1・河野貴昭1 (久留米工大・工・教育創造工1)	D324 カトリバエ属 <i>Lispe</i> の雄交尾器の形態比較(双翅目:イエバエ科) ○吉澤聡史1・館卓司1 (九大院・比文・生物体系1)
16:00	A325 EPGシステムを用いたチャノミドリヒメコバエの吸汁様式の解明 ○萬屋宏1 (農研機構・野菜茶業研究所1)	B325 海浜植物ハマゴウの訪花昆虫相と花粉媒介者に関する研究 ○西條喜来1・塚田森生2 (鹿児島大学大学院 理工学研究科1・三重大学 生物資源学部2)	C325 環境保全型水田と慣行水田における土壌養分がイナゴの発達と餌選択に及ぼす影響 ○TrisnawatiDina1・安田弘法2 (岩手院・連合農1・山形大・農2)	D325 後翅が退化した甲虫においても前翅固定装置は退化していない ○野村周平1 (国立科博1)
16:15	A326 日本より見出されたミナミアオカメムシの卵寄生蜂, <i>Trissolcus basalis</i> (Wollaston) (ハチ目:ハラビロクロバチ科) ○三田敏治1, 2 (九沖農研セ1・学振PD2)	B326 新潟県海岸地域におけるアリ相 ○土田大輔1・山口勇氣1・岩西哲2・工藤起来1 (新潟大学・教育学部1・十日町市立里山科学館2)	C326 クヌギカメムシが卵塊に塗布するゼリー状物質の成分 ○森山実1・棚橋薫彦1・貝和菜穂美2・深津武馬1 (産総研・生物プロセス1・東大・総合文化2)	D326 欧州で発達する形態観察技術とその応用: <i>Zorotypus weidneri</i> (絶翅目) の頭部形態を例に ○松村洋子1・Wipfler Benjamin 1・Pohl Hans 1・Dallai Romano 2・町田龍一郎3・真下雄太3・Camera Josenir 4・Rafael Jose 4・Beutel Rolf 1 (イエナ大学, ドイツ1・シエナ大学, イタリア2・筑波大学3・国立アマゾン研究所, ブラジル4)

16:30	<p>A327 ネギハモグリバエに対する品種抵抗性の要因と抵抗性機構の解明  ○武田光能1・河合章1・北村登史雄1・山下謙一郎1・若生忠幸1  (農研機構野菜茶研1)</p>	<p>B327 オオルリシジミと随伴アリの種間関係ならびに九州北部豪雨が生息地に及ぼした影響  ○村田浩平1  (東海大・農1)</p>	<p>C327 オオムギの品種間におけるトノサマバッタ摂食阻害活性の比較および摂食阻害物質の探索  ○小西令子1・上野大介1・田中誠二2・川浦香奈子3・徳田誠1  (佐賀大学農学部1・農業生物資源研究所2・横浜市立大学国際総合科学部3)</p>	<p>D327 有機転換圃場における害虫、土壌動物と土着天敵の密度変動解析  ○徐啓聡1・徐会連1・石綿薫1・千嶋英明1・大久保慎二1・岩石真嗣1・加藤茂1・藤山静雄2  (自然農1・信大理2)</p>
16:45	<p>A328 殺虫剤がハエの蛹期に効果が無いのは常識か  ○中山裕人1  (静岡県立引佐高校1)</p>	<p>B328 アルゼンチンアリの薬剤防除における非標的種への生態影響評価  ○坂本佳子1・井上真紀2・林岳彦1・大西一志1・鈴木一隆1・上森大幹1・野村拓志1・岸本年郎3・杉山隆史4・杉丸勝郎4・五箇公一1  (国環研1・農工大院・農2・静岡県庁3・フマキラー4)</p>		<p>D328 ケブカハナバチはイチゴの花で採餌するのか？  ○AdhikariRadha Devkota1, 2・宮永龍一2  (鳥取連大・生物環境科学1・島根大・生物資源2)</p>



**公開シンポジウム**  
9月14日(日) 13:30~16:00

**これからの科学者を育てるために (サタケ記念会館)**  
企画/世話人: 広島大会事務局・日本応用動物昆虫学会中国支部会共催

- SA1 五箇公一(国立環境研) 研究者として世の役に立つ
- SA2 長沼 毅(広島大学) これからの科学者を育てるために~「枚挙の生物学」のリバイバル
- SA3 加藤朱莉(茗溪学園中学校) 今までの研究とこれから□
- SA4 井上真紀(東京農工大) 生態学的女性研究者論□

**企画シンポジウム**  
9月15日(月祝) 14:00~17:00

**危機にさらされる海岸性昆虫とその保全 (総会会場)**  
企画/世話人: 石井 実・鶴崎展巨(自然保護委員会)

- SB1 坂本 充(広島市昆虫館) ミヤジマトンボの保護に係る現状と今後の課題
- SB2 河上康子(大阪市博外来研) 大阪湾と播磨灘沿岸部における海岸性甲虫相と海浜環境の関係□
- SB3 鶴崎展巨(鳥取大学) 鳥取砂丘の海浜性昆虫の現状と問題点: ハンミョウ類の絶滅とアリジゴク1種の衰退
- SB4 永幡嘉之(自然写真家) 東日本大震災以後の東北地方の海岸性昆虫

**昆虫学会秋の学校**  
企画/世話人: 広島大会事務局

- SC1 三中信宏(農環研/東京大学) 分類学と系統学のはざままで生物多様性を理解する
- SC2 宮竹貴久(岡山大学) 生き物の行動を科学する
- SC3 辻 和希(琉球大学) 社会性昆虫における社会的免疫と自己組織化
- SC4 深津武馬(産業技術総合研究所) 虫だけ見てもわからないこと: 微生物との共生による昆虫の環境適応と進化
- SC5 高林純示(京都大学) 植物揮発性物質が媒介する生物間相互作用 —みどりのかおりの生態学—
- SC6 東城幸治(信州大学) 日本列島の地の利を活かした昆虫生物地理学

## 小中高ポスター発表 (L102)

9月15日(月祝) (コアタイム:12:00~13:00)

(参加者名簿には発表者のお名前は載っておりません)

- P1 山角瑞穂(札幌日大高校・科学部)北広島市のゴマシジミ生息地の特徴 第二報
- P2 栗田想平・鈴木淳介・和田雪奈・千代川絵里・五十嵐祐実(千葉県立成田西陵高等学校)飛翔不能にしたテントウムシによるアブラムシ類防除の試み
- P3 桑原達和・山田りさ・松井 颯汰(大阪府立園芸高等学校 ビオトープ部)害虫捕獲粘着紙を用いたカシノナガキクイムシの防除
- P4 横田隼人(島根県出雲市立荒木小学校)トビイロシワアリはどんな条件で“しろ”を作るか
- P5 中野太賀・脇山涼輔(福岡県立八幡高等学校・科学部)昆虫の分散と地理的障壁による影響
- P6 榎本茉莉亜(池田学園池田高等学校)南日本における港のアリの地域間比較—外来アリのモニタリング
- P7 水俣日菜子(池田学園池田高等学校)桜島溶岩地帯に生きるアリ—変遷をとげるアリの種数と顔ぶれ
- P8 吉嶺薫乃, 谷山玲美, Riya Arora(鹿児島県立国分高校 サイエンス部 昆虫班)大隅諸島におけるノギリクワガタの多様性と亜種分類の妥当性